



2019年 7月 1日

報道機関関係者 各位

尚綱学院高等学校 「長崎・被爆体験伝承者講話」実施のお知らせ

報道関係者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より本学院の教育へご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、本校では「社会とのつながりを意識し、他者とともに生きる姿勢を育む」ことを教育活動の柱と位置づけ、1979年より、核廃絶を願って折り鶴の吹き流しを飾る市民グループ「平和を祈る七夕・市民のつどい」の趣旨に賛同し、毎年生徒全員で折り鶴を折っております。

さらに今年度は、高校2学年の生徒が、長崎への修学旅行を予定しております。この度、「被爆体験伝承者等派遣事業」により来る7月5日（金）に修学旅行の事前学習として長崎市より被爆伝承者が派遣され、講話を聴くことになりました。

「被爆体験伝承者等派遣事業」とは、平成30年度から厚生労働省と広島市、長崎市が協力し、伝承者、朗読ボランティアを無料で派遣する事業です。戦後70年以上が経過し、被爆者の高齢化が進んでおり、唯一の戦争被爆国として、被爆者の体験や平和への思いを次世代に語り継ぐもので、今回、長崎原爆被爆体験を語り継ぐ「講話」が尚綱学院高等学校を舞台に開催する運びとなりました。

お忙しい時期とは存じますが、生徒たちが原爆の恐ろしさや平和の尊さについて学び、考える姿を是非取材頂き、報道下さいますよう宜しくお願いします。

参考：「国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館」被爆体験伝承者等派遣事業について

<https://www.peace-nagasaki.go.jp/information/1158>

尚綱学院高等学校

担当教員／白津 祈恵子

電話／022-264-5881

<「被爆体験伝承者講話」実施内容>

1. 日 時 2019年7月5日(金)6限 14:00~14:45
2. 場 所 尚綱学院高等学校 礼拝堂
3. 講演者 平田 周(ひらた しゅう)氏

【交流証言者 平田 周氏】

1958年、長崎市生まれ。原爆俳人松尾あつゆきの長女みち子の長男。81年、長崎大学経済学部卒業。現在、長崎県西彼杵郡長与町内で小・中学生向けの学習塾運営の傍ら、祖父や母の被爆体験の継承に力を注いでいる。編著に『松尾あつゆき日記』(長崎新聞社)、復刊『原爆句抄』、著書に『このかなしき空は底ぬけの青』、原著に『子らと妻を骨にして』がある。